

7 110番、119番に電話する

1 110番に電話する



目標

- ①110番に電話をかけることができる。
- ②事故、事件に関する言葉を知り、状況を伝えることができる。
- ③警察の質問を理解し、適切な受け答えができる。
- ④自分の名前と住所、電話番号を伝えることができる。

トピックのイメージ作り

- ・テキストP.129のイラストを見ながら救急車、パトカー、消防車について確認。
- ・「110番」、「119番」の説明を見ながら、それぞれどこにかけるか、どんなときに利用するかを確認。
- ・スマホなどで音があれば、それぞれのサイレンを聞かせる。
- ・自国の警察、消防の番号について話題にしてもよい。
- ・[話せる学習者の場合]110番、119番に電話した経験、救急車に乗った経験などについて尋ねる（自国での経験でもよい）。

会話のことば

P.131-132

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
- ・「～町」から学習者の今住んでいる町名の読み方の確認。
- ・「電話番号」から、電話番号の数字の言い方（ゼロきゅうゼロの…）を確認。
- ・「犯罪」や「(大きい)けが」「急なひどい病気」にどんなものがあるか言ってもらおう。
- ・会話のことばを学習後、再度P.129のタイトル下「110番、119番」の部分を読み、いつどこにかけるか等の確認をする。

会話

P.129-130

- ・王さんの困った顔などで状況を考えながら、会話の場面を確認する。
（できる学習者であれば、「ことば」から予測した場面を説明してもらって

もよい)

- ・支援者が会話文を読む。学習者はP. 130-131 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・緊急時の会話はパターンとして覚えると良いので、警察が聞くこと、答えるべきことをまず、確認する。(事故か事件か、場所の住所、名前、電話番号)
- ・テキストのパターンで練習した後、支援者が警察になり、学習者は自分の住所、電話番号を入れて練習し、言えるようにする。
- ・「はなしましょう」を練習した後、また会話に戻り、「階段から落ちた」を、他の状況に変えて練習してもよい。

はなしましょう！ 1) 事件

P.133

1) A : どうしましたか。

B : が ありません。

- ・出てくる語彙についてイラストを見ながら確認。
イラストから「盗む」「盗る」「泥棒」などの語彙を入れてもよい。
その後練習。
- ・できる学習者であれば、自国でよく起こる犯罪等について語彙を使って説明してもらおう。

はなしましょう！ 2) 事故・救急

P.133

2) A : どうしましたか。

B : ました。 けが人は、 人です。(いません)

- ・動詞「ぶつかる」「おぼれる」についてイラストを見ながら確認。
辞書形を紹介。「けが人」の意味確認。
- ・起こった状況を説明するため、「～ました」と過去形になることを確認。
- ・「～人」の言い方の練習。(P. 8)
- ・「はなしましょう！ 1)、2)」が終わったところで、会話練習に戻り、

「バイクがありません」の部分を「はなしましょう！ 1) 2)」で練習した語彙に変えて言う。

学習目標を確認して終了

2 119 番に電話する

- 目標**
- ①救急、消防（119 番）に電話をかけることができる。
 - ②火事や救急の場合に場所と状況を伝えることができる。
 - ③自分の名前と電話番号を伝えることができる。
 - ④発生場所の住所を伝えることができる。
 - ⑤火事や事件、事故が発生した場合にすべきことを知る。

トピックのイメージ作り

- ・ 119 番に電話するのはどんなときか、確認。（「1. 110 番に電話する」で学習済み）
- ・ 利用したことがあるか、自国の番号、利用状況について聞く。
- ・ 話せる学習者であれば、救急車を呼ぶ前にできることや呼ぶ前の相談ダイヤル（#7119）について話す。

はなしましょう！ 1) 救急

P.137

1) A : どうしましたか。

B : 子どもが 階段から 落ちました。

- ・ 問題のイラストを見ながら、出てくる語彙の確認。
辞書形を確認する。「血が出る」「息をしない（する）」「手がしびれる」「血を吐く」「頭を打つ」「苦しい」。

2) A : どうしましたか。何が 燃えていますか。

B : (場所・物) から 火・煙 が出ています。

- ・「火・煙 が出る」を確認。
場所の言葉を変えて練習。

A : どうしましたか。何が燃えていますか。

B : (場所・物) が 燃えています。

- ・語彙を確認後、代入練習。
- ・できる学習者であれば、「近くに何かありますか」という質問を支援者がし、周りの中心となる建物等を説明する練習をする。(テキスト P. 139 「知っているといいです」の「■困ったとき、場所がわからないとき」、を参照にするとよい。)

会話のことば

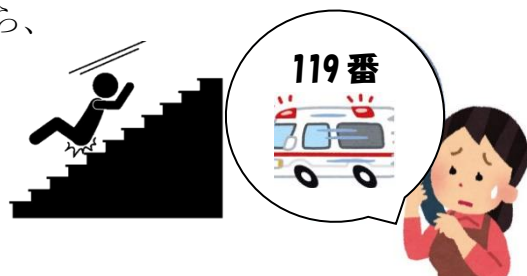
P.136-137

- ・支援者がことばを発音し、学習者は P. 136-137 を見て意味を確認しながら後について言う。
- ・「～君」について確認。「～ちゃん」、「～さん」を使う場合についても触れる。
- ・「落ちる」を使って例文を作る。
- ・「何も〇〇ない」を確認。例文づくり。
- ・「呼吸」「息をする」「息をしている」について、動作などを入れながら確認。

会話

P.134 -135

- ・テキストの王さんのイラストを見ながら、王さんの今の気持ちについて考える。
人が階段から落ちるイラストを見て、場面の確認をする。



- ・支援者が会話文を読む。

学習者は P135-136 の訳 (ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語) を見

ながら音と意味を結びつけて理解する。

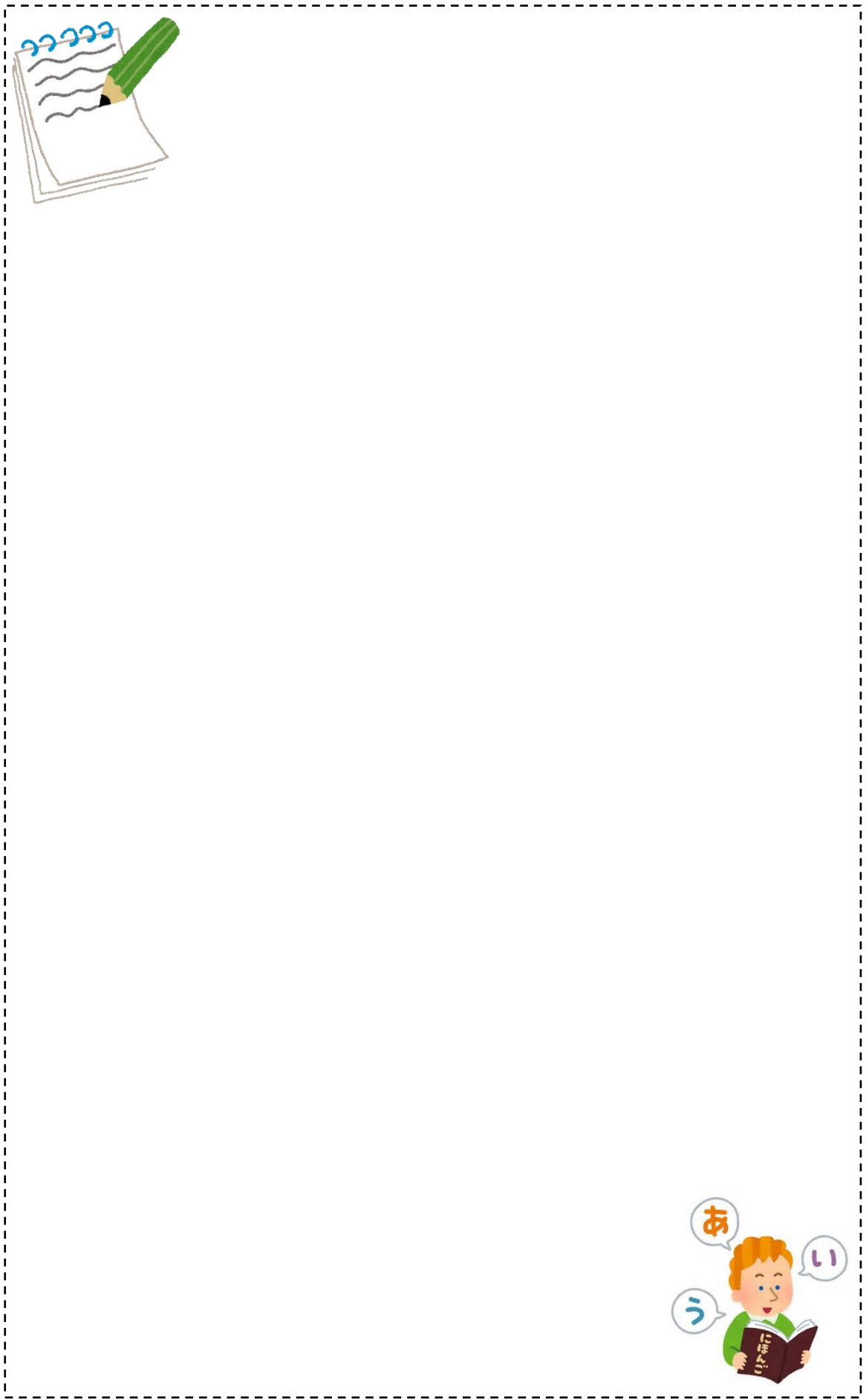
- ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。
 - ・火事と救急について確認。「はなしましょう」からの復習
 - ・「呼吸をしていますか？」という問いかけがわからなかったときの聞き返し表現について確認。他の言葉での聞き返しの練習をやってもよい。
- ・本文を練習した後、自分の住所、名前、電話番号を入れて練習。
- ・電話を使って、顔が見えない状態にして住所や状況を言う練習してもよい。

知っていると いいです！

P.139

- ・火事や救急の場合のパンフレットなど資料があれば持参する。
- ・テキスト P.139 を一緒に読みながら、説明し、確認をしていく。
- ・自分で住所を言うのが難しい学習者であれば、支援者がボイスレコーダーに学習者の住所を録音する活動を行ってもよい。

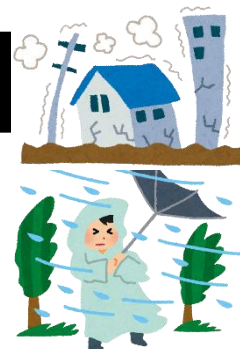
学習目標を確認して終了



⑧ 災害(台風・大雨・地震)のとき

1 台風のとき

- 目標**
- ① 天気の情報を理解する。
 - ② (特別) 警報、注意報のことばを理解する。
 - ③ 警報などが出たときの対処の仕方を知る。



トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 141 の絵を見せ、話す。
「これは何ですか。天気はどうかですか。」
「雨と風です。天気は悪いです。雨と風が強いです。」



会話のことば

P.142-144

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
[学習者に余裕があるようなら以下のやりとりを試してみる]
- ・学習者の国に台風(ハリケーン、サイクロン)があるか、もしあるなら、どう呼ぶか聞いてみる。(日本の場合、台風は名前も付けられているが、1号、2号のように番号で呼ぶのが一般的)
- ・「東海地方」はどこか聞いてみる(地図があるとわかりやすい)。もし学習者が興味を示せば、地図を見せ、天気予報でよく使われる地方名を復唱する
「九州、中国、四国、関西、北陸、・・・」。
- ・「強い」「外」の反対語を考える。

会話

P.141-142

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 142 の訳(ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語)を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・以下、『本書の使い方(P. 2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
- ・会話文の内容を確認する。

- 支援者** : ・いつ台風が来ますか。どこに来ますか。
・何に注意しますか。 風が弱いですか。

- ・暴風警報のとき外に出ますか。

語彙の導入

1) 警報の言葉

P.144

- ・支援者が発音し、学習者は後について言う。
- ・支援者はそれぞれの警報の違いについて説明する。
「暴風警報は風がとても強いです。暴風特別警報はとてもとても風が強いです。暴風注意報は風が強いです。」

2) 警報と一緒に使う言葉

P.145

- ・支援者が発音し、学習者は後について言う。絵や訳を見ながら意味を確認する。

はなしましょう！ 1)

P.146

1) 暴風警報のとき、外に出ない てください。

- ・災害が起きそうな気象状況のとき、どうすればいいか考える。
- ・「暴風警報のとき、どうしますか。」「家にいます。外に出ません。」のように「～ください」「～ないてください」の形に変換するのではなく、どうするか答える練習でもよい。
- ・「出る」「行く」「(運転)する」の「ない形」、「入る」「行く」「変える」の「て形」を確認する。

【ない形の作り方】テキスト P. 12 参照

※動詞のグループ分けは、テキスト P. 13 参照

○グループ1の動詞（五段活用の動詞）

辞書形⇒ない形（辞書形とは、辞書に載っている形）

「～く」⇒「～かない」 例「行く」⇒「行かない」

○グループ2の動詞（上一段・下一段活用の動詞）

「～る」⇒「～ない」 例「出る」⇒「出ない」

○グループ3の動詞（サ行・カ行変格活用の動詞）

「する」⇒「しない」

「くる」⇒「こない」

【て形の作り方】テキスト P.12 参照

○グループ1の動詞（五段活用の動詞）

※動詞のグループ分けは、テキスト P.13 参照

辞書形 ⇒て形（辞書形とは、辞書に載っている形）

「～う」「～つ」「～る」⇒「～って」 例「入る」⇒「入って」

「～く」⇒「～いて」 例「書く」⇒「書いて」

例外「行く」⇒「行って」

※「行く」は、て形の規則から外れる

○グループ2の動詞（上一段・下一段活用の動詞）

「～る」⇒「～て」 例「変える」⇒「変えて」

○グループ3の動詞（サ行・カ行変格活用の動詞）

「する」⇒「して」

「くる」⇒「きて」

知っていると いいです

P.146

- ・警報の情報は天気予報で得られるが、防災情報アプリ「全国避難所ガイド」でも警報の情報（英語、中国語、韓国語対応。2020年までに10か国語対応予定）が得られる。

学習目標を確認して終了

2 大雨のとき

- 目標**
- ①避難情報が出たときの対処の仕方を知る。
 - ②避難するときに持っていく物を考える。



トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 147 の放送（スピーカー）の絵や避難している人の絵を見せ、何をしているか質問する。
「危ないです。どこへ行きますか。」
- ・スマートフォンで「緊急エリアメール」「災害・避難情報」などのキーワードで検索すると避難指示が出たときの携帯画面を見たり受信音を聞いたりすることができる。その携帯画面を見せながら、あるいは受信音を流しながら「これは何ですか。」「どんなときこのメールをもらいますか。」「このメールをもらったら、どうしますか。」と質問する。

会話のことは

P.149-150

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。
[学習者に余裕があるようなら以下のやりとりを試してみる]
- ・[8課1]の復習も兼ね、「大雨警報のとき、どうしますか。」と質問。また、他にどんな「警報」があるか聞いてみる。
- ・大垣市に「川」がいくつあるか質問。
⇒答えは 15。（『大垣市防災ガイドブック』の「大垣市の河川の概要」より）
大垣市が水害に遭いやすい地域であることを理解してもらう。
- ・『大垣防災ガイドブック』の「河川別洪水ハザードマップ」を見て、学習者の家の近くの川が氾濫したとき、どの程度浸水するか確認してみる。
- ・学習者の家の近くの「避難所」がどこにあるか確認する。
参考：『大垣市防災ガイドブック』、防災情報アプリ「避難所ガイド」（英中韓訳あり）
- ・「避難準備・高齢者等避難開始」について学習者から質問があれば「知っているといいです！」へ。

「避難所へ行きますか」

- ・洪水や土砂災害の絵を見せながら、以下の●のような状況で避難所へ行くかどうか考える。
- ◎家にいます。危ないです。
- ◎川の近くに住んでいます。川の水がいっぱいです。
- ◎山の近くに住んでいます。大雨で山の土砂（土砂災害の絵を見せる）が来るかもしれません。
- ◎地震があります。家がこわれました。こわれるかもしれません。
- ◎外の水が多くなりました。家の中に水が入ってきました。

「いつ避難所へ行きますか」

- ・「避難準備・高齢者等避難開始」の情報が出ると避難所が開く。
- 大垣市全体の避難所が一斉に開くのではなく、危険な地域に限定して開くこともある。携帯に届く緊急エリアメール、ツイッターの「大垣防災安全情報」や防災情報アプリ「全国避難所ガイド（英語、中国語、韓国語対応。2020年までに10か国語対応予定）」でもどこの避難所が開設されたか情報が得られる。

- ・支援者が会話文を読み、学習者は P.148 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
 - ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。
 - ・会話文の内容を確認する。
- 支援者**：・天気はどうか。
- ・外の音は何ですか。
 - ・どうして避難所へ行きますか。
 - ・何を持って避難所へ行きますか。

- 1) **必要なもの** を持って、小学校へ 避難しましょう。

- ・『大垣市防災ガイドブック』の「我が家の防災チェックシート」などを参考にして、どんなものが災害のときに役立つか考えてみる。
- ・非常持ち出し袋に入れておいたほうがいいものや、避難時の必需品、家族の構成によって必要なものなどを挙げ、それを日本語で何と言うか伝える。
- ・災害時に起こり得る停電や断水に対応するために、水や非常食などをどの程度準備しておいたらいいか考えてみる。



学習目標を確認して終了

3 地震のとき

目標

- ①地震の情報を正しく理解する。
- ②地震の直前、直後の行動を考える。
- ③余震に備え、近くの避難場所・避難所がどこかを知る。
- ④地震によって起こり得る状況を考え、対策を考える。

トピックのイメージ作り

- ・テキスト P. 153 の携帯電話の絵（緊急地震速報）を見せる。
（スマートフォンで「緊急地震速報」「携帯受信音」などのキーワードで動画を検索すると受信音を流すことができる。できれば受信音を流しながら）「これは何ですか」と質問してみる）



会話のことば

P.154-156

- ・支援者がことばを発音し、学習者は意味を確認しながら後について言う。

- ・ 会話文を読む前に、緊急地震速報が携帯電話で流れた後、どのように行動するか考えてみる。
速報直後：火から離れる、窓や家具から離れる、机の下に入る、などの行動
速報後：強い揺れが来る恐れがあるため無理に火を消しに行かない
地震後：周囲の人の安否確認のための声掛けをし、火を消し、ガラスなどの落下物に注意する
- ・ 支援者が会話文を読み、学習者は P.154 の訳（ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語）を見ながら音と意味を結びつけて理解する。
- ・ 支援者が会話文を読み、学習者はその通りに動いてみる。
または、学習者が会話文を読み、支援者がその通りに動いてみる。
例：窓から離れたり、机の下に入ったりして体を動かす。
ガラスに気をつけるにはどうしたらいいか考える。
(スリッパ、靴をはく、など)
- ・ 「離れて」「入って」「消して」などの「～て」は、家族や友達、年下などに対する指示・依頼に使われる。「～てください」より丁寧度は下がる。ここでは家族間で使われているが、それだけでなく、急を要する場合は家族でなくても「～て」で指示・依頼されることがある。

はなしましょう！ 1)

1) また 強い地震がある かもしれません。
避難場所へ 行き ましょう。

- ・ 地震の後は余震があるということを理解する。
- ・ 学習者の自宅近くの一時的な避難場所、避難所を探す。
参考：『大垣市防災ガイドブック』、防災情報アプリ「避難所ガイド」（英中韓訳あり）
- ・ 地震の後、起こり得る状況として、「はなしましょう！」の①～⑦の前文を例に挙げる。そのあと、どうするかを学習者に質問する。
支援者：・地震のあと、水が出ないかもしれません。どうしますか。

・電気／ガスが来ないかもしれません。どうしますか。

⇒どのくらい水を買う必要があるか、水が出ない場合トイレをどうするか（ゴミ袋や新聞紙、凝固剤を使って排泄物を処理する、処理した排泄物は可燃ごみとして出す、など）、電気がない場合どうするか、などを話し合う。

支援者：・家具が倒れるかもしれません。固定しましょう。

⇒実際に学習者の部屋の家具の配置を描いてもらい、家具の位置や高さを確認、危ない箇所があれば指摘する。また、固定器具を紹介する。

支援者：・ドアが開かないかもしれません。地震のあと、すぐドアを開けましょう。

⇒地震で建物が傾き、ドアが開かなくなる可能性がある。地震のあとすぐにドアを開けておくとよい。

・その他、地震のときに起こり得る状況を考え、そのためにどうしたらいいか一緒に考える。

⇒「知っているといいです！」を参照

学習目標を確認して終了

9 道を聞く



1 人に道を聞く

- 目標**
- ①人を呼び止めて道を聞くことができる。
 - ②目的地を説明することができる。
 - ③目的地の行き方（説明の内容）を理解することができる。
（道案内に関することばの理解ができる）
 - ④簡単な交通ルールについて知る。

トピックのイメージ作り

- ・ テキスト P. 161 の絵を見ながら話す。
おばあさんは何をしているか説明してもらおう。
（警官、警察官、道を聞く、など口頭で確認）
- ・ 話せる学習者には、日本で道に迷ったことがあるか、そのときどうしたか、など経験を話してもらおう。
- ・ 日本と自国の交通ルールの違い、道を走る乗り物の種類、その違い（例：バイクが多い）、自国と日本の道の違いなど自由に話してもらおう。



語彙の導入

1) 道案内で使用する語彙（位置のことばなど）の確認

P.164

- ・ 「右」「左」の導入。
支援者の手やイラストで右・左を示す。学習者に手を上げてもらったり、顔を指示した方向に向けてもらったりして確認。
余裕があれば、「上」「下」「前」「後」など、位置の言葉を入れてもよい。
- ・ 移動の言葉の確認。
「はなしましょう」1) の地図（P. 164）を一緒に見ながら、
「まっすぐ行く」「曲がる」「右へ曲がる」「左へ曲がる」を確認。
（テキストの「ことば」にもあるので、分からないようならそちらも見せながら進める。）

[余裕がある学習者の場合]

- ・～番目、交差点、信号、角、つきあたり、向かい、隣、近く、近所、東西南北など、関連ある語彙を確認（紹介）してもよい。

2) 地図にある場所や建物に関する言葉の確認

P.164

- ・イラストを見ながら、郵便局、病院、コンビニ、八百屋、銀行、公園、スーパー、レストラン（喫茶店）など、建物や場所の名前について確認。
家の近くに何があるか、日本でよくどこに行くか、など話題を広げてもよい。
余裕がある学習者であれば、その他の店の名前（ドラッグストア、ショッピングモール、ガソリンスタンド…）をここで学習させてもよい。
マンツーマンの場合、その学習者の住居近くの地図を持参し、周りの様子について話しながら、学習するとよい。
- ・余裕があれば、「すみません、地図をかいてもらえませんか。」という聞き方をここで教える。

はなしましょう！ 1)

P.164

A：保健センターは どこですか。

B：交差点を右へ 曲がると 右に ありますよ。

- ・文型：動詞の辞書形＋と、～。
- ・動詞の辞書形の確認。ここでは動詞を「曲がる」「まっすぐ行く」に限ってもよい。文型の意味（道案内の際に使う「と」）について、イラストを示しながら解説する。

A：コンビニは どこですか。

B：交差点を 左へ 曲がって まっすぐ行くと 右に あります。

- ・文型：動詞のて形、辞書形＋と、～。
(問題と会話に出てくるのでこの文型も導入・練習)
実際に示しながら確認。問題を解いてみる。
- ・自分達が今、学習している施設の地図を使って、応用練習をしてもよい。

会話のことば	P.163-164
<ul style="list-style-type: none"> ・支援者がことばを発音し、学習者は P. 163-164 を見て意味を確認しながら後について言う。 ・「～目」（余裕があれば「～本目」）の言い方の確認。 ・「～センター」という言い方の施設があれば他に挙げてもらう。 ・学習者に余裕があれば、「交差点」以外に道で見る交通関係のことばを確認しておく。（信号、踏切、道路、歩道橋、橋、など） 	
会話	P.161-162
<ul style="list-style-type: none"> ・会話の場面を確認。 ・支援者が会話文を読み、学習者は P. 162 の訳を見ながら音と意味を結びつけて理解する。 ・以下、『本書の使い方(P.2)』の④会話〈会話の進め方〉を参照。 ・会話文の内容を確認する。 <p data-bbox="268 1025 1093 1070">支援者：・アントニオさんは町の人に何を聞きましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アントニオさんは今、困っています。何がわかりませんか。 ・聞くときに何と聞きましたか。 ・保健センターはどこにありますか。 など <ul style="list-style-type: none"> ・会話文のポイントについて確認 <ul style="list-style-type: none"> ・初対面の人に道を聞くときの切り出し方。「すみません、ちょっといいですか」について確認。 <p data-bbox="242 1440 630 1485">[余裕がある学習者の場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の言い方（「すみません、お聞きしたいんですが」など、より丁寧な言い方）を提示してもよい。 ・「～は どこですか。」（～は、を変えて言う） ・町の人の確認表現「保健センターですね」、アントニオさんの確認表現「右ですね」 ・アントニオさんの会話の終わり方について確認。 ・再度、会話の練習（個別練習）をし、アントニオさんの部分をできれば記憶させる。 ・その後、教室内もしくは施設内を移動し、道を尋ねる練習をする。 <p data-bbox="268 2022 1353 2067">他の支援者や職員に協力してもらい、スイトピアセンターの施設の位置を</p>	

聞きに行かせてもよい。聞いてきたものを支援者に報告する。

- ・その他、支援者が学習者の住んでいるところや学習者の国の地図を持って行き（スマホでもよい）、その周辺施設への行き方を互いに尋ね、説明し合う活動をしてよい。

知っていると いいです！

P.165

- ・日本での免許、乗っているもの（車・バイクなど）について尋ねる。国での免許、乗っていたものについて尋ねる。
- ・できる学習者であれば、日本の交通ルールで難しいこと、慣れないことなどについて話す。また、既に知っていることを説明してもらってもよい。
- ・自転車のルールについて、気を付けるべきことを確認する。
自国との違いについて言ってもらってもよい。
- ・交通標識について、P. 165 の絵と説明を見ながら確認。
できる学習者であれば、その他の標識も用意して、気になるもの（「動物注意！」など）や見ただけでは意味のわからないものについて聞き、支援者から説明する。
- ・学習者の国の標識で面白いものがあれば、教えてもらう。
- ・日本で気を付けたほうがよい交通ルールについて、こちらから説明する。

学習目標を確認して終了